

## 学習成果に関するレポート

高知工科大学大学院

社会システム工学コース1年

石東 慶太

2007年度、高知工科大学とタマサート大学（タイ）間の交換留学生として、6月7日～10月29日までの5ヶ月弱をタイで過ごして学習しました。派遣先のタマサート大学での学習の成果や、タイでの生活で得たものなどについて報告します。

まず述べておきたい事は、留学の動機です。私は高知工科大学でごく普通の学生生活を送っていました。しかし、学部生活の終盤に差し掛かるに連れ、自分の研究課題に対する姿勢や、そのための学習に対する意欲が強まり、指導教員にも認められる成果を出せるようにもなりました。そして将来の目標についても真剣に考えるようになり、それに向かって順調に進んでいるものと思っていました。

しかし、そんな天狗になった私に、「まだまだ甘い」「経験が足りない」「世の中を分かっていない」などの言葉をほのめかす先生や先輩が現れ始めました。それに戸惑っていた私に舞い込んだ知らせが今回の留学案内でした。指導教員も強く推薦して下さい、大学にご縁のある関係者の方々や過去の留学経験者の支援もあって、私の決心も固まりました。

その過程で決心したことは、「視野を広げる」「鍛える」「遊ぶ」です。

「視野を広げる」という目標は最重要課題で、日本という島国から外へ出て、自分が今まで認識していた世の中とどう違って見えるのかを肌身で感じ、それを理解することで世間に対する姿勢や、様々な状況に対応できる考え方を身に付けようというものです。

「鍛える」は、大学の学業で得られるものを自分の研究に応用できるようにすること。そして、世界で通用する力の基本となる英語力を向上させ、自分の研究が日本国内だけに留まるのではなくすることが目的です。

「遊ぶ」は、タイ国内の様々な場所を旅行してたくさんの世界を見ることですが、それは単なる観光ではなく、人々のリアルな暮らしや地域の特性を知るということでは、建築を志す者として非常に大きな意義があり、それらを楽しむことが重要と考えました。

これらの目標を抱いて単身タイに渡り、タマサート大学での学習、現地で知り合えた仲間たちとの学生生活、タイでの自分自身の生活、旅行先での学習や体験など、多くの経験や知識を得て帰国することができました。その結果が以下のようなものです。

「視野は広がったのか？」もちろんです。今まで頭の中にあった常識や知識が、タイ生活で衝撃を受ける度にそれらの項目毎が倍増していくようでした。日本側がいいもの、タイ側がいいもの、混合させればいいものなどの多数の発見やひらめきがありました。

そういった人々のライフスタイルに併せて、人々の思想についても感銘を受けたり、考えさせられたりしました。日本のやり方を通すという考えも薄れ、より綺麗な生き方をするためには自分が知らない生き方を限りなく知らなければならぬと思いました。

次に「鍛えられたか？」正直なところ、ここが一番苦しいところでした。大学での講義や会話は全て英語。留学当初から大した英語力はなく、留学中もかなりの努力を強いられるという覚悟の上でしたが、結局完全な理解には及びませんでした。もちろん努力も続けていましたが、授業が進むに連れて明らかな遅れを取っている危機感にさらされていました。

そんな私の救いとなったのが友達でした。彼らともまた英語でしか話すことができませんが、辞書や筆談を繰り返してお互いの意志を伝え合うことができました。授業中に理解できなかった箇所を教えてもらったり、世間話をしているうちに休日には一緒に遊びに出かける仲にまでなっていました。そして会話を楽しいと感じられるようになっていました。相変わらず私は間違った文法や簡単な単語しか話せませんが、相手もスムーズに理解してくれるようになり、私自身も友達の英語を聞き取ったり語意を理解するのに前向きでした。

不思議なことに、そうすることが一人で学習していた時よりも頭に残り、他の場面で活用していけるようになりました。そして、相手がどんな趣旨の話をしているのかも分かるようになっていました。期末試験まで残れたのは彼らのお陰だったと言えます。

講義とは別に研究成果を発表というような科目も履修しましたが、最後のプレゼンテーション後にアドバイザーがおっしゃった、「英語上達したね！」が忘れられません。この研究課題は自分の今後の研究にも活用できそうなので、より深い学習の意欲が湧いています。

最後に「遊んだか？」思う存分でした。留学初期は身の回りの学習や生活環境に慣れることに専念していましたが、幸か不幸か、一度旅行したことをきっかけに遊びに目覚め、講義の合間を縫って頻繁に遊びに行きました。それは当初の目的どおり、様々な世界を見て回るということでしたが、もっと知りたい、いろいろ見たいという意欲を強めました。

それと同様に楽しかったことは「出会い」で、日本人はもちろん、世界各国の旅行者とも友達になり、若い私に世の中を諭して下さった方もいました。そういった中で感じたことは、今私は非常に貴重な体験をさせてもらっているのだということでした。

若い頃にどれだけの体験をしたのか。それが最も大切で人生にも活かされると思います。

以上のように、私は留学中、目標に対して精一杯の努力を続けていました。それができた自分にも驚きも感じていますが、そうなるきっかけを与えて下さった高知工科大学とタマサート大学。両校の関係者の方々、身の周りの方々、資金面でサポートして頂いた JASSO に対する感謝の意が尽きることはありません。

今ではもっと世界を見たい、そのために英語も使いたいという意欲も持っています。環境が変われば考え方も変わるので、自分の生き方や国を見つめなおす良い機会になります。

私は今回の留学で得たものを自分の人生に活かし、日本に留まるだけでは得られなかった幸せをつかみにいきます。

支援して頂いた方々、私を成長させて頂いて本当にありがとうございました。